

3年

# 地域たんけん北地区

## 西国街道・髭の渡し

この付近には江戸時代に武庫川を越える西国街道の渡し場がありました。街道沿いの西毘陽村に髭をはやした老人が営む茶屋があったことから「髭の渡し」と名づけられたといわれています。江戸幕府の命令によって文化3年(1806)に作られた「山崎通分間延絵図」を見ると、武庫川の河原をはさんで街道の道筋が兩岸の堤のところで途切れていますが、ここに渡しがありました。渡し場の様子は描かれていませんが、尼崎側の街道沿いに「髭茶屋」や「立場(人足が休息する所)」と注記された建物が描かれています。

この渡しでは東から西への川越えは常松村と西毘陽村の2カ村が月番で受け持ち、西から東への川越えは、段上村、上大市村、下大市村(いずれも現在は西宮市)の3カ村が月番で受け持っていました。例年10月中旬から翌年春の彼岸までは、板橋が架けられ、水量が増した時には人足の肩越えによる渡しが行われていましたが、後には船での渡しが行われるようになりました。

参勤交代の大名や往來の旅人など数多くの人々に利用されてきたこの渡しは、明治の終わりに下流に甲武橋が架けられ、西国街道の新道(現国道171号線)ができるまで続きました。

兵庫県西宮土木事務所

